【問題提起】第 17 分科会

「薬と社会」

運営委員　　宮地　典子（医薬シンポジウム実行委員）
　　菊池　環（佐久総合病院）
　　濵﨑 信裕（川辺生協病院　薬剤部）
助言者　　片平洌彦　（医療法人財団健和会　臨床・社会薬学研究所 所長）

わが国の社会的課題として、人口の 4 割近くを 65 歳以上が占める超少子高齢時代を近い将来に控え、社会保障制度および財政維持の観点から、医療、介護、福祉サービスの在り方について、大きな変革の時期に至っている。2025 年の超少子高齢時代を見据えた社会保障制度改革の議論では、薬物療法の高度化や、在宅医療を含む地域医療の推進等々、薬剤師が主体的にかつ多職種と連携の下で専門職能を発揮することへの社会的な期待が増している。しかしながら、現在の医薬分業のあり方に厳しい意見が存在することも、事実である。昨年度は危険ドラックが社会問題となり、世間を騒がせた。また年末には薬剤の取り違いにより患者が死亡するようなミスも起こっており、医薬品の安全管理に果たす薬剤師の責任が問われている。さらに、医薬品販売における薬学的知見に基づく指導が法律に明記され、薬局での実践に、より厳しい法的責任が問われることになる。一方では、HPV ワクチンによる多数の重篤な被害が明らかになっている問題などもある。

上記のような状況をふまえ、以下に示す幅広い分野での薬剤師活動や現状の問題について活発に討論し、交流しよう。

1)　病院での薬剤師の活動
2)　地域での薬剤師の活動・在宅訪問活動
3)　医薬品の安全管理
4)　医療安全
5)　危険ドラッグ
6)　ジェネリック薬の使用
7)　薬薬連携
8)「子宮頸がん」ワクチンによる副作用被害
9) 薬害防止の活動
10)　薬剤師確保・育成・研修
11)　その他